



(左) お店と工房をつなぐ中庭。「ここのトタンが錆びているところも、いいなと思って。大家さんは綺麗にしましよかと言ってくださったんですけど、ここは塗らないでもらいました。」と、海さん。(右) 工房の向かいに併設されている店舗では、OTA MOKKO の商品を買うことができる。店舗は不定休でホームページ (ota-mokko.com) に、お知らせあり。

左から、木を編んだような模様の『二崩し』、離れてみると水玉に見える『丸つなぎ』、椿の花のように見える『目玉』、3種類の大きさの木片を“やたらに、寄せた『矢鱈』。ちなみに海さんも一緒に寄せる木の色合わせを考えることもあるという。「でも私の色合わせより、やっぱり憲さんのが合わせたものの方が人気があるんですね。」

ず積極的に展示会へ参加している。

憲さんは、独立してから毎年一つの模様をテーマに決めて1年間研究している。

「1年目は『二崩し』、2年目は『丸つなぎ』、3年目は『目玉』、4年目は『矢鱈』という模様です。『矢鱈』というのは、3種類の大きさの長方形の木片を、やたらに寄せてあるんです。」

共通しているのは、シンプルで木の目を生かした美しい模様というところ。憲さんの寄木細工は、その現代的なセンスがとてつも評価が高く「世界に誇る日本の手仕事」をコンセプトにした、玉川タカシマヤの『WAGOTO』をはじめ、高島屋の各店舗や、銀座三越にも常設されている。実は、そうしたセンスの良さは、日々こうして伝統の技術や模様を研究し、学ぶ姿勢に裏打ちされているものなのかもしれない。

現在、『OTA MOKKO』は憲さんの工房と、作品を販売するお店を併設している。お店の方は妻の海さんが担当し、夫婦で『OTA MOKKO』営んでいる。

二人は、なんと小学生の頃、同じ登校班だったこともあるほ

どの、正真正銘の幼馴染。

作業行程が多い寄木細工は、手間も時間もかかる。海さんは、独立した時に憲さんの仕事を手伝うため、憲さんと同じ学校で1年間学んだというのだから驚いた。「できることは何でもやります。」と笑顔で話す華奢な彼女の中には、とてつもなく強い芯があるのだ。もちろん、危険がともなう仕事は憲さんがさせないが、裏に表に憲さんを支えている。時折、高校生と小学生の娘さんもワークショップ用の材料の準備など、手伝ってくれるのだそう。

「こんな風に、家族みんなで一緒にいれて、仕事ができることをとても幸せに思っているんです。」と、憲さんの隣で海さんは目を細めた。



太田 憲

おおた・けん / 1979年山形県で生まれ、2003年寄木細工グループ「雑木囃子」を結成し国内外での展示会へ参加。2012年「OTA MOKKO」設立。2013年第7回全国「木のクラフトコンペ」にてグランプリ受賞。

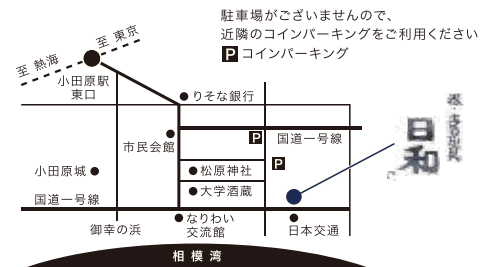
おとなりさん通販部は、今回で最終回です。毎回楽しみに待っていた皆さん、ありがとうございました。次回からは、また新しいコーナーがスタートしますので、お楽しみに！

おとなりさん
×
日和

OTA MOKKO

お箸と箸置き づくりワークショップ

寄木細工で余った木片を使って、お箸を作ってみませんか？
いろいろな色の天然木からお気に入りを見つけましょう。
寄木細工の箸置きも、セットで作ります。



器・生活雑貨 日和 小田原市浜町3-1-22 (かまぼこ通り)
営業時間 / 11:00~17:30
月曜・第3日曜定休 (仕入れにより不定休あり)
電話番号 / 0465-22-0226 http://hiyorijp.com

開催日時: 2016年6月4日(土) 午前11時~(所要時間: 約1時間)

場所: 「器・生活雑貨 日和」 参加費: 1,500円(材料費込) * 先着10名様